

# 施策評価調書(1)

評価対象年度 令和元年度

めざす姿	Ⅲ 産業や歴史を大切にしたい“地域の魅力と誇りを育むまち”
施策名	5 地域資源の活用
施策関係課	(市長室)広報課／(経済部)産業労働政策課・産業振興課／(教育総務部)文化財課

**●施策の基本方針(目標)**

本市が持つ多種多様な魅力と誇りを育み、市内外に発信していくことで、多くの交流や活動を生み出し、まちを元気にしていきます。

**●目標指標**

指標①	名称	この施策の推進が図られていると感じる人の割合(市民意識調査)			単位	%	指標の種別	成果
	目標値	現状値を上回る(令和2年度)		現状値	30.9(平成27年度)		達成状況	
	年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度(目標年度)		
	実績値	31.1	30.2	28.0	31.2			
指標②	名称	記者会見・記者発表・資料提供件数			単位	件	指標の種別	活動
	目標値	420(令和2年度)		現状値	379(平成26年度)		達成状況	
	年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度(目標年度)		
	実績値	368	309	342	395			
指標③	名称	1110city.comのページビュー月平均件数			単位	件	指標の種別	結果
	目標値	84,000(令和2年度)		現状値	76,402(平成25年度)		達成状況	
	年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度(目標年度)		
	実績値	32,082	19,969	12,214	26,432			
指標④	名称				単位		指標の種別	
	目標値			現状値			達成状況	
	年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度(目標年度)		
	実績値							
指標⑤	名称				単位		指標の種別	
	目標値			現状値			達成状況	
	年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度(目標年度)		
	実績値							

\*「達成状況」: 目標年度に判定します。(目標値達成を「達成」、目標値未達を「未達成」)

	(単位:千円)	平成28年度決算額	平成29年度決算額	平成30年度決算額	令和元年度決算額	令和2年度予算額
事業額	事業費	161,823	177,213	288,957	259,555	4,118,191
	概算人件費	131,630	142,110	139,767	143,006	138,470
	総事業費	293,453	319,323	428,724	402,561	4,256,661

\*前年度に「完了」「休止」「廃止」となった事業額についても合算されています。

総合評価	評価結果	単位施策ごとの評価結果			総合評価の区分
	B	単位施策① 56	単位施策② 51	単位施策③ 56	結果(平均値)が55以上:A 結果(平均値)が50以上55未満:B 結果(平均値)が40以上50未満:C 結果(平均値)が40未満:D
	(前回評価結果)	単位施策④	単位施策⑤	結果(平均値)	
	B			54.3	

## 施策評価調書(2)

評価対象年度 令和元年度

施策を構成する実施計画事業の状況

(単位:千円)

① 地域資源を活用したシティプロモーションの実施									
事業コード	事業名称	担当課	平成28年度 事業費 (決算額)	平成29年度 事業費 (決算額)	平成30年度 事業費 (決算額)	令和元年度 事業費 (決算額)	令和2年度 事業費 (予算額)	令和 元年度 の 総評価	令和 2年度 の実施 方向性
			概算人件費	概算人件費	概算人件費	概算人件費	概算人件費		
35100101	シティプロモーション 事業	市長室 広報課	17,503	46,808	47,290	38,272	41,509	56	現状維持 で実施
			11,890	11,310	11,455	11,455	11,455		
35100202	観光事業	経済部 産業振興課	21,889	8,406	92,916	8,130	20,955	56	拡充して 実施
			15,990	14,040	18,170	14,220	13,904		
35100212	地域物産館施設管理費	経済部 産業振興課	—	2,673	3,860	4,027	5,439	56	現状維持 で実施
			—	0	1,343	2,686	2,686		
35100221	その他広報事業	市長室 広報課	10,399	10,766	11,122	10,333	10,891	56	現状維持 で実施
			5,330	5,070	5,135	5,135	5,135		

② 歴史的資源の保護と活用									
事業コード	事業名称	担当課	平成28年度 事業費 (決算額)	平成29年度 事業費 (決算額)	平成30年度 事業費 (決算額)	令和元年度 事業費 (決算額)	令和2年度 事業費 (予算額)	令和 元年度 の 総評価	令和 2年度 の実施 方向性
			概算人件費	概算人件費	概算人件費	概算人件費	概算人件費		
35200232	郷土資料館施設運営費	教育総務部 文化財課	4,559	3,552	5,119	6,411	6,531	54	現状維持 で実施
			15,580	14,820	15,010	15,010	15,010		
35200301	史跡等管理事業	教育総務部 文化財課	15,551	16,826	17,369	17,736	35,154	48	拡充して 実施
			4,100	3,900	3,950	3,950	3,950		
35200401	赤山城跡保存整備事業	教育総務部 文化財課	28,957	3,570	11,117	53,269	74,310	50	拡充して 実施
			4,100	3,900	3,950	3,950	3,950		
35200501	遺跡発掘調査事業	教育総務部 文化財課	8,266	7,643	6,672	7,400	9,580	56	現状維持 で実施
			22,140	21,060	21,330	21,330	21,330		
35200601	民俗文化財等調査事業	教育総務部 文化財課	7,385	8,242	3,095	3,884	7,271	42	現状維持 で実施
			2,460	2,340	2,370	2,370	14,170		
35200701	指定文化財候補物件 調査事業	教育総務部 文化財課	460	925	80	150	—	46	他事業に 統合されて 実施
			4,100	3,900	3,950	3,950	—		
35200801	文化財センター 施設運営費	教育総務部 文化財課	1,992	1,209	2,544	1,324	1,790	50	現状維持 で実施
			13,120	12,480	12,640	12,640	12,640		
35200902	歴史的建造物 施設運営費	教育総務部 文化財課	795	576	618	17,311	9,127	56	効率化して 実施
			5,740	5,460	5,530	7,900	5,530		
35201101	その他文化財保護費	教育総務部 文化財課	4,078	2,583	2,119	1,198	1,347	56	効率化して 実施
			3,280	3,120	3,160	3,160	3,160		
35201201	古文書資料収集保管 事業	教育総務部 文化財課	2,056	2,829	246	248	1,631	46	効率化して 実施
			6,570	6,530	6,590	6,590	4,740		
35201301	古文書解読事業	教育総務部 文化財課	2,398	2,742	1,899	2,143	3,074	53	効率化して 実施
			6,570	6,530	4,220	4,220	4,220		
35201401	歴史自然資料館開設準備事業 (平成29年度をもって完了)	教育総務部 文化財課	—	14,451	—	—	—	—	—
			—	9,360	—	—	—		
35201502	文化的景観推進事業	教育総務部 文化財課	—	8,122	13,088	69	—	52	他事業に 統合されて 実施
			—	7,760	7,850	7,850	—		
35201602	歴史自然資料館 施設運営費	教育総務部 文化財課	—	—	—	25,411	21,627	48	現状維持 で実施
			—	—	—	3,160	3,160		

単位施策名 ③ SKIPシティを活用した地域の活性化									
事業コード	事業名称	担当課	平成28年度 事業費 (決算額)	平成29年度 事業費 (決算額)	平成30年度 事業費 (決算額)	令和元年度 事業費 (決算額)	令和2年度 事業費 (予算額)	令和 元年度 の 総評価	令和 2年度 の実施 方向性
			概算人件費	概算人件費	概算人件費	概算人件費	概算人件費		
35300102	NHK跡地整備事業	経済部	5,350	5,105	5,158	32,508	3,838,224	58	拡充して 実施
		産業労働政策課	4,920	4,680	6,004	7,031	7,031		
35300204	映画祭関連事業	経済部	25,000	25,000	60,000	25,000	25,000	54	現状維持 で実施
		産業労働政策課	4,510	4,290	5,530	4,582	4,582		
35300302	映像関連普及事業	経済部	5,185	5,185	4,645	4,731	4,731	56	現状維持 で実施
		産業労働政策課	1,230	1,560	1,580	1,817	1,817		

実施計画事業評価調査

評価対象年度	元年度
--------	-----

事業コード	35100101	事業名称	シティプロモーション事業	事業区分	通常事業
担当	市長室	広報課	問い合わせ先	259-7628	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成 28 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	Ⅲ 産業や歴史を大切に“地域の魅力と誇りを育むまち” - 5 地域資源の活用 - ① 地域資源を活用したシティプロモーションの実施
根拠法令等	

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	一部委託
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	市民及び市外在住者	同左	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)	
	若者世代の流出を阻むように市の魅力を向上させる他、若者世代の定住促進に留まらず一人でも多くの若者世代、子育て世代の人々、そして本市の伝統であるものづくり産業の担い手、操業者・起業者等を市外から本市により多く呼び込むことを目的とする。	・誘客情報サイト「1110city.com」を基盤とした情報発信・川口市マスコット「きゅぼらん」を活用したPR活動・定住促進冊子を活用した本市知名度の向上・市内外の広告ビジョン、鉄道車両内や駅構内のモニターを用いた本市PR動画の放映・イルミネーション「かわぐち光のファンタジー」(H29～)の実施など	
元年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績	
	若者世代・子育て世代をターゲットとした定住促進冊子を市外イベントなどで配布。本市PR動画をJRトレインチャンネルやJ・ADビジョンなどで放映。川口駅周辺などにイルミネーションを設置	項目	実績
事業の成果 【定性的評価】	PR動画やイルミネーションが報道機関などに取り上げられ、インターネットやSNS上で好評価を得られている。		

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	川口市公式Twitterフォロワー数			指標・目標値の説明(算定式)	川口市公式Twitterフォロワー数。(目標値は令和2年度から設定)				
	単位	件	指標の種別	結果						
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度				
	実績値・達成状況	—	—	279	—	2,365	—	3,800		
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)					
	単位		指標の種別							
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度				
	実績値・達成状況									

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	02款	01項	10目	002細目	04細々目	シティプロモーション事業				
年度	平成29年度	平成30年度		令和元年度		令和2年度	令和3年度				
予算額(A)	48,300	47,893		38,836		41,509	41,509				
決算額(B)=(C)+(D)	46,808	47,290		38,272							
財源※	特定財源(C)	2,417	3,200		3,351		3,123				
	一般財源(D)	44,391	44,090		34,921		38,386				
概算人件費(E)	11,310	11,455		11,455		11,455	11,455				
従事職員人数(人)	常勤	再任用	1.45	0.00	1.45	0.00	1.45	0.00	1.45	0.00	
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	58,118		58,745		49,727		52,964	52,964			

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	15 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
56 /60	日本全体の人口減少傾向をみても、早晚ピークアウトを迎えるという危機感を持ち、数多いプロモーションの中で埋もれないようなPR方法を模索する必要がある。川口市が本来持っている多くの魅力を継続して発信するよう、従来の事業内容を強化していく。	2年度 現状維持で実施 3年度 現状維持で実施 4年度 現状維持で実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度	元年度
--------	-----

事業コード	35100202	事業名称	観光事業	事業区分	主要な事業 政策宣言14
担当	経済部	産業振興課	問い合わせ先	259-9018	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	Ⅲ 産業や歴史を大切にしたい“地域の魅力と誇りを育むまち” - 5 地域資源の活用 - ① 地域資源を活用したシティプロモーションの実施
根拠法令等	地域資源活用事業補助金交付要綱、川口まちかど観光案内所事業実施要綱、川口宿鳩ヶ谷宿日光御成道まつり実行委員会補助金交付要綱

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	一部委託
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	市外からの観光客及び市民	同左	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)	
	本市に特徴のある様々な地域資源(観光資源)を活用した観光振興に取り組むことで、魅力ある訪れたいまち、選ばれるまちの実現を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光PR促進事業</li> <li>地域資源を活用した事業への団体補助金</li> <li>歴史的財産を活用したイベントである「川口宿 鳩ヶ谷宿 日光御成道まつり」の準備、PR</li> <li>まちかど観光案内所事業</li> </ul>	
元年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光ルートマップ総合版、各ルートのデザイン等の一新、配架施設の増加。</li> <li>地域資源(観光資源)を活用した事業を行う地域団体に対し、対象経費の50%(上限200,000円)を助成。</li> <li>川口宿 鳩ヶ谷宿 日光御成道まつり 秋絵巻の企画検討。</li> </ul>	項目	実績
事業の成果 【定性的評価】	川口の観光地点をウォーキングルートとして結ぶ11種のマップを一新することで、市内外の方へ川口市の魅力をPRすることに寄与した。また、配架施設を増加し、配送業務を委託することで、ルートマップを手にする機会を拡充した。		

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	地域資源活用事業補助金交付件数			指標・目標値の説明(算定式)	地域資源を活用した事業を行う地域団体への助成。					
	単位	件	指標の種別	結果							
	目標値	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	実績値・達成状況	5 未達成		6 未達成		5 未達成					
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)						
	単位	指標の種別									
	目標値	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	実績値・達成状況										

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	07款	01項	02目	004細目	01細々目	観光事業			
年度	平成29年度	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		
予算額(A)	9,478	96,727		10,377		20,955		12,984		
決算額(B)=(C)+(D)	8,406	92,916		8,130						
財源※	特定財源(C)	80		0		0				
	一般財源(D)	8,260		92,836		8,130		20,955		
概算人件費(E)	14,040		18,170		14,220		13,904		13,904	
従事職員人数(人)	常勤	再任用	1.80	0.00	2.30	0.00	1.80	0.00	1.76	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	22,446		111,086		22,350		34,859		26,888	

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	15 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
56 /60	観光物産協会、商工団体、緑化団体、商店街等と協力・連携し、地域資源を活用する事業を展開する必要がある。発展した事業を展開するため、情報共有・収集に努め、連携した事業展開を目指す。また、来年度に控えた秋絵巻を恒常化したイベントにしないために、企画を策定していく。	2年度	拡充して実施
		3年度	現状維持で実施
		4年度	拡充して実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度	元年度
--------	-----

事業コード	35100212	事業名称	地域物産館施設管理費	事業区分	主要な事業 政策宣言36
担当	経済部	産業振興課	問い合わせ先	259-9018	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成 29 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	Ⅲ 産業や歴史を大切に“地域の魅力と誇りを育むまち” - 5 地域資源の活用 - ① 地域資源を活用したシティプロモーションの実施
根拠法令等	

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	一部委託
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	市民等	同左	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をするのか)	
	イナパーク川口の賑わいの拠点として、地場産農産物の販売などを行い、地域の振興を図る。	地域物産館を集客性の高いイベントやワークショップを開催する使用者に貸し出すことにより、市内外から訪れる利用者の憩いの場所となることで、地域コミュニケーションの活性化に繋げる。	
元年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績	
	地域物産館のPRに繋げるため、集客性の高いイベントやワークショップを開催する使用者に貸出した。	項目	実績 単位
		地域物産館利用件数	12 回
事業の成果 【定性的評価】	地域コミュニケーションの活性化に繋がった。		

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	地域物産館貸出日数			指標・目標値の説明(算定式)	令和元年度は平成30年度の達成値の1.2倍とした。 令和2年度は令和元年度の目標値と同数とした。			
	単位	日	指標の種別	結果		令和元年度	令和2年度	令和3年度	
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度			
	実績値・達成状況		36 達成	40 未達成					
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)				
	単位		指標の種別			令和元年度	令和2年度	令和3年度	
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度			
	実績値・達成状況								

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	07款	01項	02目	006細目	01細々目	地域物産館施設管理費			
年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度					
予算額(A)	2,673	4,647	4,805	5,439	5,349					
決算額(B)=(C)+(D)	2,673	3,860	4,027							
財源※	特定財源(C)	0	0	0	0					
	一般財源(D)	2,673	3,860	4,027	5,439					
概算人件費(E)	0	1,343	2,686	2,686	2,686					
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.00	0.00	0.17	0.00	0.34	0.00	0.34	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	2,673	5,203	6,713	8,125	8,035					

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	13 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	15 /15
	業務プロセス改善	検討した			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	十分行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
56 /60	令和4年度ハイウェイオアシス開業に伴い、指定管理者制度の導入を検討しており、スムーズに運営が始められるように準備を進める必要がある。	2年度 現状維持で実施 3年度 効率化して実施 4年度 拡充して実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度	元年度
--------	-----

事業コード	35100221	事業名称	その他広報事業	事業区分	通常事業
担当	市長室	広報課	問い合わせ先	259-7628	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	Ⅲ 産業や歴史を大切に“地域の魅力と誇りを育むまち” - 5 地域資源の活用 - ① 地域資源を活用したシティプロモーションの実施
根拠法令等	

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	一部委託
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	市民	同左	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をするのか)	
	川口市掲示板等を利用し、行政情報を提供するもの。	市内の約1,000基ある掲示板の維持管理及び市発行ポスターの貼付	
元年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績	
	毎月1～15日、16日～月末の2回を期間に市発行ポスター等を貼付した。また、町会からの要望で随時、掲示板の新設・移設・修繕等を行った。	項目	実績 単位
		掲示板設置箇所数	1,000 基
事業の成果 【定性的評価】	掲示板は市内の人目に付きやすい場所を利用して設置しており、広報効果は極めて高い。市内外に各種市政情報を提供することができた。		

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称		指標・目標値の説明(算定式)			
	単位	指標の種別				
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	実績値・達成状況					
指標②	名称		指標・目標値の説明(算定式)			
	単位	指標の種別				
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	実績値・達成状況					

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	02款	01項	10目	002細目	05細々目	その他広報事業	
年度	平成29年度	平成30年度		令和元年度		令和2年度	令和3年度	
予算額(A)	10,818	11,221		10,385		10,891	10,891	
決算額(B)=(C)+(D)	10,766	11,122		10,333				
財源※	特定財源(C)	0		0		0		
	一般財源(D)	10,766	11,122		10,333		10,891	
概算人件費(E)	5,070	5,135		5,135		5,135	5,135	
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.65	0.00	0.65	0.00	0.65	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	15,836	16,257		15,468		16,026	16,026	

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	15 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
56 /60	屋外での事業のため、風雨による破損やいたずら等のリスクを内包している。物理的な情報提供であるが、市ホームページとの連携を模索する等、より効果的な情報提供の検討も必要である。	2年度 現状維持で実施 3年度 現状維持で実施 4年度 現状維持で実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度	元年度
--------	-----

事業コード	35200232	事業名称	郷土資料館施設運営費	事業区分	主要な事業 政策宣言14
担当	教育総務部	文化財課	問い合わせ先	222-2421	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成 23 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	Ⅲ 産業や歴史を大切にした“地域の魅力と誇りを育むまち” - 5 地域資源の活用 - ② 歴史的資源の保護と活用
根拠法令等	文化財保護法、川口市立文化財センター設置及び管理条例

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	一部委託	
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)		
	郷土資料館	市民等		
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をするのか)		
	市民に郷土の歴史・民俗・文化についての理解、文化財愛護の精神を深めてもらうとともに、収蔵資料を後世に伝えるもの。	文化財資料の展示・学習会・収蔵を行う施設として郷土資料館を運営する。		
元年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績		
	企画展2回(「川口味ものがたり～水が育んだ味噌・ソース・酒～」展、「今、思い出す。懐かしいあの頃の暮らし。～昭和の遊び～」展)、講座3回(ソース作り体験教室、味噌作り体験教室、醸造文化めぐりバスツアー)を実施した。また社会科見学対応を実施した。	項目	実績	単位
		企画展 参加者数	3,720	人
講座 参加者数	68	人		
事業の成果 【定性的評価】	市民に郷土川口の歴史・民俗・文化について理解を深めていただくとともに、文化財愛護精神の高揚に寄与できた。			

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	郷土資料館実施事業来館・参加者数			指標・目標値の説明(算定式)	過去の来館・参加者数の推移を基に算出				
	単位	人	指標の種別	結果						
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度				
	実績値・達成状況	3,154	未達成	3,429	未達成	4,364	達成			
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)					
	単位		指標の種別							
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度				
	実績値・達成状況									

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	10款	06項	08目	007細目	01細々目	郷土資料館施設運営費			
年度	平成29年度	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		
予算額(A)	3,776	5,918		6,951		6,531		6,531		
決算額(B)=(C)+(D)	3,552	5,119		6,411						
財源※	特定財源(C)	1,102	1,049		1,068		1,044			
	一般財源(D)	2,450	4,070		5,343		5,487			
概算人件費(E)	14,820	15,010		15,010		15,010		15,010		
従事職員人数(人)	常勤	再任用	1.90	0.00	1.90	0.00	1.90	0.00	1.90	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	18,372		20,129		21,421		21,541		21,541	

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	どちらともいえない	13 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
54 /60	旧田中家住宅の重要文化財指定を記念して企画展を実施し、また旧田中家住宅をサテライト会場にするなど、関連イベントを増加して実施し、効果の拡大を図った。新型コロナウイルス感染拡大防止のための行事中止や臨時休館により、来館者数に若干の影響があったが、今後も内容や実施方法を充実し、来館者増に努めていきたい。	2年度	現状維持で実施
		3年度	現状維持で実施
		4年度	現状維持で実施



実施計画事業評価調査

評価対象年度	元年度
--------	-----

事業コード	35200301	事業名称	史跡等管理事業	事業区分	通常事業
担当	教育総務部	文化財課	問い合わせ先	222-2421	新規・継続
					継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	Ⅲ 産業や歴史を大切にしたい“地域の魅力と誇りを育むまち” - 5 地域資源の活用 - ② 歴史的資源の保護と活用
根拠法令等	文化財保護法、埼玉県文化財保護条例

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち義務的なもの	実施形態	一部委託
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	・木曾呂の富士塚 ・赤山城跡	市民等	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)	
	国指定重要有形民俗文化財である「木曾呂の富士塚」及び県の旧跡である「赤山城跡」の保存管理等を行うもの。	「木曾呂の富士塚」と「赤山城跡」保存整備事業区域内における樹木管理、用地施設の修理、土地の借上げ等を行う。	
元年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績	
	・木曾呂の富士塚・赤山城跡の樹木等の管理を行った。 ・木曾呂の富士塚・赤山城跡の修繕を行った。	項目	実績 単位
		木曾呂の富士塚樹木管理	1,494 m <sup>2</sup>
		赤山城跡樹木管理	33,761.63 m <sup>2</sup>
		赤山城跡賃貸借	10,703.52 m <sup>2</sup>
事業の成果 【定性的評価】	用地借り上げ、樹木管理、修繕を行うことにより、本市の貴重な文化財である木曾呂の富士塚と赤山城跡の保護を図ることができた。		

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	樹木管理面積			指標・目標値の説明(算定式)	国指定重要有形民俗文化財と県の旧跡の保存管理面積				
	単位	m <sup>2</sup>	指標の種別	結果		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値					30,000	30,000	30,000	30,000	30,000
	実績値・達成状況	35,173.63	達成	35,173.63	達成	35,255.63	達成			
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)					
	単位		指標の種別			平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値									
	実績値・達成状況									

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	10款	06項	08目	002細目	01細々目	史跡等管理事業			
年度	平成29年度	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		
予算額(A)	16,836	17,420		17,883		35,154		101,193		
決算額(B)=(C)+(D)	16,826	17,369		17,736						
財源※	特定財源(C)	0		0		0		0		
	一般財源(D)	16,826		17,369		17,736		35,154		
概算人件費(E)	3,900		3,950		3,950		3,950		3,950	
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.50	0.00	0.50	0.00	0.50	0.00	0.50	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	20,726		21,319		21,686		39,104		105,143	

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	どちらともいえない	11 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	9 /15
	業務プロセス改善	検討した			受益者負担の水準	不明	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
48 /60	史跡の管理面積が広大で、市所有地が増加傾向にあり、箇所に応じた適切な管理が必要である。今後は、更なる民間活用も検討する必要がある。また、安全対策のため、令和2~3年度に富士塚の擁壁改修を予定している。	2年度	拡充して実施
		3年度	拡充して実施
		4年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度	元年度
--------	-----

事業コード	35200401	事業名称	赤山城跡保存整備事業	事業区分	通常事業
担当	教育総務部	文化財課	問い合わせ先	222-2421	新規・継続
					継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成 2 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	Ⅲ 産業や歴史を大切に“地域の魅力と誇りを育むまち” - 5 地域資源の活用 - ② 歴史的資源の保護と活用
根拠法令等	文化財保護法、埼玉県文化財保護条例

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち義務的なもの	実施形態	一部委託
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	赤山城跡	市民等	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)	
	県の旧跡で本市の重要な歴史遺産である「赤山城跡」の公有地化整備を行うもの。	「赤山城跡」の保存整備をはかるため、売却要望のある土地の購入を行う。	
元年度の実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績	
	県指定旧跡赤山城跡の保存整備用地の購入(測量・鑑定・購入)を行った。	項目	実績 単位
		赤山城跡保存整備用地購入	1,887.02 m <sup>2</sup>
事業の成果【定性的評価】	堀や遊歩道に面する用地の一部を購入し、史跡の保存をはかるとともに、その活用に供することができることから、赤山城跡に対する市民意識の向上につながった。		

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	公有地化			指標・目標値の説明(算定式)	旧跡の公有地化		
	単位	m <sup>2</sup>	指標の種別	結果				
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
	実績値・達成状況	91	359.78	1,717.41	2,234.56	3,054.25		
		91.55	達成	264.40	未達成	1,887.02	達成	
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)			
	単位		指標の種別					
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
	実績値・達成状況							

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	10款	06項	08目	002細目	02細々目	赤山城跡保存整備事業			
年度	平成29年度	平成30年度		令和元年度		令和2年度	令和3年度			
予算額(A)	4,055	11,938		53,815		74,310	98,297			
決算額(B)=(C)+(D)	3,570	11,117		53,269						
財源※	特定財源(C)	0		0		0	0			
	一般財源(D)	3,570		11,117		53,269	74,310	98,297		
概算人件費(E)	3,900		3,950		3,950		3,950	3,950		
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.50	0.00	0.50	0.00	0.50	0.00	0.50	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	7,470		15,067		57,219		78,260	102,247		

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	どちらともいえない	9 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	改善の余地なし			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	活用の余地なし			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性		
50 /60	保存整備対象地が128,502m <sup>2</sup> と広大で、買収に長い年月を要するため、史跡の有効な活用を検討した購入を行っている。	2年度	拡充して実施	
		3年度	拡充して実施	
		4年度	拡充して実施	

実施計画事業評価調査

評価対象年度	元年度
--------	-----

事業コード	35200501	事業名称	遺跡発掘調査事業	事業区分	通常事業
担当	教育総務部	文化財課	問い合わせ先	222-2421	新規・継続
					継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	Ⅲ 産業や歴史を大切に“地域の魅力と誇りを育むまち” - 5 地域資源の活用 - ② 歴史的資源の保護と活用
根拠法令等	文化財保護法、埋蔵文化財緊急調査費国庫補助要項、文化財保存事業費関係補助金交付要綱

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち義務的なもの	実施形態	一部委託	
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)		
	発掘調査を伴う個人宅造の市民等、各種開発に伴い埋蔵文化財範囲確認調査を必要とする市民等・事業者	同左		
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をするのか)		
	各種開発事業に伴う、市内に所在する埋蔵文化財包蔵地を確認するための範囲確認調査や埋蔵文化財の記録保存をはかるもの。	各種開発事業に伴い、市内に所在する埋蔵文化財包蔵地を確認するための範囲確認調査や記録保存のための遺跡の発掘調査を実施する。また、発掘調査により出土した遺物等の整理作業を行うとともに記録にまとめ、報告書を刊行する。		
元年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績		
	個人住宅建設に伴う発掘調査1件、範囲確認調査21件と平成30年度実施調査の整理作業及び報告書を刊行した。なお、上記の件数は文化財課予算で実施した調査件数であり、他にも開発原因者負担による調査(発掘1件、報告書刊行2冊)を実施している。	項目	実績	単位
		個人住宅建設に伴う発掘調査	1	件
		各種開発に伴う範囲確認調査	21	件
事業の成果 【定性的評価】	埋蔵文化財の保存・活用が図れた。			

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	範囲確認調査の件数			指標・目標値の説明(算定式)	範囲確認調査は、開発行為に伴い実施するものであり、目標値を事前に設定できないため、年度実績を便宜上、目標値とする。				
	単位	件	指標の種別	結果		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値				23	28	21			
	実績値・達成状況	23	達成	28	達成	21	達成			
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)					
	単位		指標の種別			平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値									
	実績値・達成状況									

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	10款	06項	08目	003細目	01細々目	遺跡発掘調査事業			
年度	平成29年度	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		
予算額(A)	9,510	9,340		9,478		9,580		9,635		
決算額(B)=(C)+(D)	7,643	6,672		7,400						
財源※	特定財源(C)	2,925	2,800		3,150		2,665			
	一般財源(D)	4,718	3,872		4,250		6,915			
概算人件費(E)	21,060	21,330		21,330		21,330		21,330		
従事職員人数(人)	常勤	再任用	2.70	0.00	2.70	0.00	2.70	0.00	2.70	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	28,703		28,002		28,730		30,910		30,965	

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	15 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	改善の余地なし			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
56 /60	現状維持で、同等の事業を実施していく。	2年度	現状維持で実施
		3年度	現状維持で実施
		4年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度	元年度
--------	-----

事業コード	35200601	事業名称	民俗文化財等調査事業	事業区分	通常事業
担当	教育総務部	文化財課	問い合わせ先	222-2421	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成 3 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	Ⅲ 産業や歴史を大切にしたい“地域の魅力と誇りを育むまち” - 5 地域資源の活用 - ② 歴史的資源の保護と活用
根拠法令等	文化財保護法、川口市文化財保護条例

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	直営
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	文化財資料	市民等	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)	
	市内に所在する民俗文化財や鋳物関係資料等の文化財資料を調査し保護するため。	民俗文化財資料等について現地調査を行い、記録する。また、収集した資料について、洗浄、メンテナンス、調査を行い、台帳に整理し、収蔵・保管する。	
元年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績	
	・民俗文化財等の調査・収集・整理を行った。 ・資料の洗浄・補修・計測・写真記録・リストの作成を行った。 ・資料図面の作成を行った。 ・所蔵資料の管理を行った。	項目	実績
		民俗文化財整理	809
事業の成果 【定性的評価】	収集した民俗文化財資料を調査・整理・記録・保管し、報告・活用することにより、市民の文化財愛護精神と郷土愛の醸成につながった。		

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	民俗文化財整理点数			指標・目標値の説明(算定式)	民俗文化財整理点数					
	単位	点	指標の種別	活動							
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度					
	実績値・達成状況	5,121	達成	925	未達成	809	未達成				
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)						
	単位										
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度					
	実績値・達成状況										

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	10款	06項	08目	003細目	02細々目	民俗文化財等調査事業			
年度	平成29年度	平成30年度		令和元年度		令和2年度	令和3年度			
予算額(A)	8,599	4,978		5,524		7,271	6,776			
決算額(B)=(C)+(D)	8,242	3,095		3,884						
財源※	特定財源(C)	0		0		0				
	一般財源(D)	8,242	3,095		3,884		7,271			
概算人件費(E)	2,340	2,370		2,370		14,170	14,170			
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.30	0.00	0.30	0.00	1.70	0.20	1.70	0.20
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	10,582	5,465		6,254		21,441	20,946			

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	どちらともいえない	7 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	7 /15
	業務プロセス改善	検討した			受益者負担の水準	不明	
	民間活用	行わなかった			対象者への周知	行わなかった	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
42 /60	民俗文化財資料の寄贈・収集に伴う調査・整理・記録化である。本市の歴史や地域の特色を示すものであり、整理された資料の中で重要なものは、指定文化財候補や展示資料として活用していく。また、効率化のため、指定文化財候補物件調査事業、文化的景観推進事業について統合して実施していく。	2年度 現状維持で実施 3年度 現状維持で実施 4年度 現状維持で実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度	元年度
--------	-----

事業コード	35200701	事業名称	指定文化財候補物件調査事業	事業区分	通常事業
担当	教育総務部	文化財課	問い合わせ先	222-2421	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	Ⅲ 産業や歴史を大切にしたい“地域の魅力と誇りを育むまち” - 5 地域資源の活用 - ② 歴史的資源の保護と活用
根拠法令等	文化財保護法、川口市文化財保護条例

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	直営
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	文化財資料	市民等	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)	
	市内に所在する指定候補文化財等の現地調査を行い、文化財の保存をはかるため。	市内に所在する指定候補文化財を文化財保護審議会委員等の専門家に依頼し、調査する。その成果を報告書にまとめ、教育委員会の諮問に基づく文化財保護審議会における審議会の資料とし、審議結果を答申する。指定文化財等の現地調査をする。	
元年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績	
	・指定候補物件調査を実施した。 ・市内文化財現況調査を実施した。	項目	実績 単位
		木造薬師如来立像調査	3 回
		里字屋敷添第2遺跡出土烏帽子調査	3 回
		赤山陣屋跡、薬研屋、旧田中家住宅調査	9 回
事業の成果 【定性的評価】	本市の歴史・文化や地域的特色を示す指定文化財や指定候補文化財を調査することにより、文化財を保護し、将来市民が文化財愛護精神と郷土愛を高揚させる一助となった。		

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	調査回数			指標・目標値の説明(算定式)	文化財調査回数
	単位	回	指標の種別	活動		
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	実績値・達成状況	83 達成	8 達成	15 達成		
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)	
	単位		指標の種別			
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	実績値・達成状況					

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	10款	06項	08目	003細目	03細々目	指定文化財候補物件調査事業
年度	平成29年度	平成30年度		令和元年度		令和2年度	令和3年度
予算額(A)	925	380		380		—	—
決算額(B)=(C)+(D)	925	80		150			
財源※	特定財源(C)	0		0		—	—
	一般財源(D)	925		150		—	—
概算人件費(E)	3,900		3,950		3,950		—
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.50	0.00	0.50	0.00	—
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	4,825		4,030		4,100		—

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	9 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	9 /15
	業務プロセス改善	改善の余地なし			受益者負担の水準	不明	
	民間活用	行わなかった			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
46 /60	本市の歴史と地域性を示す文化財資料は様々なものがあり、指定候補文化財調査や指定文化財の現況調査は、文化財保護審議会等の専門家による調査であることから、優先順位や効率を検討して実施していきたい。	2年度 他事業に統合されて実施 3年度 — 4年度 —

実施計画事業評価調書

評価対象年度	元年度
--------	-----

事業コード	35200801	事業名称	文化財センター施設運営費	事業区分	通常事業
担当	教育総務部	文化財課	問い合わせ先	222-2421	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成 18 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	Ⅲ 産業や歴史を大切に“地域の魅力と誇りを育むまち” - 5 地域資源の活用 - ② 歴史的資源の保護と活用
根拠法令等	文化財保護法、川口市立文化財センター設置及び管理条例

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	直営
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	文化財センター	市民等	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をするのか)	
	市内に所蔵する資料を文化財センターに収集・保管し、展示・活用する施設として運営するもの。	文化財資料の整理作業を実施し、活用・収蔵を行う。また市民に文化財の大切さを周知するために、文化財に関する講座等の開催のほか、企画展を開催する。	
元年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績	
	文化財資料の展示・収蔵・学習を行う施設として文化財センターを運営した。また、小中学校の歴史教室社会科見学、団体見学への対応を行った。	項目	実績
		来館者数	5,266 人
事業の成果 【定性的評価】	文化財資料の整理・保管、常設展示を行い、また、小中学生対象の歴史教室の実施や社会科見学への対応により、文化財愛護精神を養う一助とした。		

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	文化財センター来館者数			指標・目標値の 説明(算定式)	過去の来館者数の推移を基に算出				
	単位	人	指標の種別	結果						
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度				
	実績値・達成状況	4,922 達成	4,342 達成	5,266 達成						
指標②	名称				指標・目標値の 説明(算定式)					
	単位		指標の種別							
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度				
	実績値・達成状況									

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	10款	06項	08目	004細目	01細々目	文化財センター施設運営費			
年度	平成29年度	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		
予算額(A)	1,228	2,707		2,117		1,790		1,790		
決算額(B)=(C)+(D)	1,209	2,544		1,324						
財源※	特定財源(C)	193	309		192		199			
	一般財源(D)	1,016	2,235		1,132		1,591			
概算人件費(E)	12,480	12,640		12,640		12,640		12,640		
従事職員人数(人)	常勤	再任用	1.60	0.00	1.60	0.00	1.60	0.00	1.60	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	13,689	15,184		13,964		14,430		14,430		

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	9 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	検討した			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行わなかった			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
50 /60	歴史教室の実施や社会科見学への対応等によって来館者の確保に努めた。今後もPR等により来館者の増加につなげたい。	2年度	現状維持で実施
		3年度	現状維持で実施
		4年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度	元年度
--------	-----

事業コード	35200902	事業名称	歴史的建造物施設運営費	事業区分	主要な事業 政策宣言34
担当	教育総務部	文化財課	問い合わせ先	222-2421	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成 18 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	Ⅲ 産業や歴史を大切に“地域の魅力と誇りを育むまち” - 5 地域資源の活用 - ② 歴史的資源の保護と活用
根拠法令等	文化財保護法、川口市立文化財センター設置及び管理条例

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	一部委託	
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)		
	市民等	同左		
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)		
	国登録有形文化財「旧田中家住宅」の保存・活用を行うもの。	大正期に建設された「旧田中家住宅」の文化財としての魅力を多くの人に感じてもらうための活動事業や、また、文化財を保存するため活動しているボランティア団体「魅がきたい」への支援などを行う。		
元年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般公開および茶室等の貸出しを行った。</li> <li>端午の節供、桃の節供、茶会等を実施した。</li> <li>各種共催イベントを実施した。</li> <li>文化財ボランティア団体の活動支援を行った。</li> <li>保存活用計画の策定を行った。</li> </ul>	項目	実績	単位
		イベント参加者数	2,349	人
ボランティア団体活動参加者数	196	人		
事業の成果 【定性的評価】	重要文化財「旧田中家住宅」を広くPRし、市民の文化財愛護精神の向上と市民文化の向上に寄与した。			

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	旧田中家住宅来館者数			指標・目標値の説明(算定式)	来館者数		
	単位	人	指標の種別	結果				
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
	実績値・達成状況	7,973	達成	11,949	達成	6,523	達成	
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)			
	単位		指標の種別					
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
	実績値・達成状況							

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	10款	06項	08目	005細目	01細々目	歴史的建造物施設運営費		
年度	平成29年度	平成30年度		令和元年度	令和2年度	令和3年度			
予算額(A)	593	637		17,455	9,127	9,127			
決算額(B)=(C)+(D)	576	618		17,311					
財源※	特定財源(C)	0	0		4,175	1,298			
	一般財源(D)	576	618		13,136	7,829			
概算人件費(E)	5,460	5,530		7,900	5,530	5,530			
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.70	0.00	0.70	0.00	0.70	0.00	0.70
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	6,036	6,148		25,211	14,657	14,657			

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	15 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
56 /60	旧田中家住宅の活用は、市民文化の向上と文化財愛護や郷土愛に大変有意義である。今後は、重要文化財としての保存活用計画にのっとり、魅力ある活用を検討していきたい。	2年度	効率化して実施
		3年度	効率化して実施
		4年度	効率化して実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度	元年度
--------	-----

事業コード	35201101	事業名称	その他文化財保護費	事業区分	通常事業
担当	教育総務部	文化財課	問い合わせ先	222-2421	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成	元	年度	～	年度
第5次川口市総合計画	Ⅲ 産業や歴史を大切にしたい“地域の魅力と誇りを育むまち” — 5 地域資源の活用 — ② 歴史的資源の保護と活用				
根拠法令等	川口市文化財保護条例、川口市管理維持費交付要綱、川口市文化財保存事業費交付要綱				

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	補助金・負担金	
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)		
	指定文化財所有者、保持団体	市民等		
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)		
	指定文化財を維持管理・修理・活用するための費用の補助金交付を行うもの。	指定文化財管理維持費、無形民俗文化財保存継承費、文化財保存事業費補助金の交付を行う。また、各協議会負担金の交付を行う。		
元年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績		
	・指定文化財補助金(指定文化財管理維持費補助金・無形民俗文化財保存継承費補助金・文化財保存事業費補助金)の交付事業を行った。 ・川口市郷土史会への交付金、県文化財保護協会・県博物館連絡協議会への負担金を交付した。	項目	実績	単位
		指定文化財管理維持費交付件数	26	件
		無形民俗文化財保存継承費補助金交付件数	5	件
文化財保存事業費補助金交付件数	1	件		
事業の成果【定性的評価】	指定文化財所有者・保持団体に補助金を交付したにより、指定文化財が保護された。			

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	指定文化財補助金交付件数			指標・目標値の説明(算定式)	指定文化財の補助金交付については、文化財所有者の申請に応じて実施するものであり、目標値を事前に設定できないため、年度実績を便宜上目標値とする。				
	単位	件	指標の種別	活動		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値	90		88		32		32		32
	実績値・達成状況	90	達成	88	達成	32	達成			
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)					
	単位		指標の種別			平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値									
	実績値・達成状況									

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	10款	06項	08目	008細目	01細々目	その他文化財保護費			
年度	平成29年度	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		
予算額(A)	2,583	2,120		1,320		1,347		1,050		
決算額(B)=(C)+(D)	2,583	2,119		1,198						
財源※	特定財源(C)	0		0		0		0		
	一般財源(D)	2,583	2,119		1,198		1,347		1,050	
概算人件費(E)	3,120	3,160		3,160		3,160		3,160		
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.40	0.00	0.40	0.00	0.40	0.00	0.40	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	5,703	5,279		4,358		4,507		4,210		

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	15 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
56 /60	指定文化財を次世代に継承していくうえでの課題を把握し、適切な交付と文化財保護支援を検討していきたい。	2年度	効率化して実施
		3年度	効率化して実施
		4年度	効率化して実施



実施計画事業評価調書

評価対象年度	元年度
--------	-----

事業コード	35201201	事業名称	古文書資料収集保管事業	事業区分	通常事業
担当	教育総務部	文化財課	問い合わせ先	222-2421	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	Ⅲ 産業や歴史を大切にした“地域の魅力と誇りを育むまち” - 5 地域資源の活用 - ② 歴史的資源の保護と活用
根拠法令等	川口市文化財保護条例

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	直営	
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)		
	本市に残された古文書、及び文化財課古文書係で保管する古文書	市民、及び本市の歴史に関心をもつ市外在住者		
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をするのか)		
	本市の歴史を解明する上で不可欠な古文書を調査・収集し、収集した古文書を最適な形で後世に伝えるため。	本市に残された古文書の調査・収集・整理		
元年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績		
	・本市に残された古文書を調査・収集し、整理・保管した。 ・収蔵している古文書資料の再整理・保管した。 ・県地域史料保存活用連絡協議会に参加した。	項目	実績	単位
		古文書の収集件数	3	件
事業の成果 【定性的評価】	本市に残された古文書資料を新たに3件、199点収集し、データ処理を行った。			

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	古文書の収集件数			指標・目標値の説明(算定式)	古文書の収集は、所蔵者からの調査依頼等によって適宜行われるものであり、目標値を事前に設定できないため、年度実績を便宜上、目標値とする。				
	単位	件	指標の種別	結果		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値	3		2	3					
	実績値・達成状況	3	達成	3	達成	3	達成			
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)					
	単位		指標の種別			平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値									
	実績値・達成状況									

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	10款	06項	08目	012細目	01細々目	古文書資料収集保管事業			
年度	平成29年度	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		
予算額(A)	3,265	247		250		1,631		251		
決算額(B)=(C)+(D)	2,829	246		248						
財源※	特定財源(C)	0		0		0		0		
	一般財源(D)	2,829		246		248		1,631		
概算人件費(E)	6,530		6,590		6,590		4,740		4,740	
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.60	0.50	0.60	0.50	0.60	0.00	0.60	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	9,359		6,836		6,838		6,371		4,991	

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	どちらともいえない	9 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	9 /15
	業務プロセス改善	改善の余地なし			受益者負担の水準	不明	
	民間活用	活用の余地なし			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
46 /60	本市に残された古文書の調査・収集、文化財課で保管する古文書の整理は、今後も継続的に実施し、貴重な歴史史料をより良い形で後世に伝えていかなければならない。今後も、効率化して実施していく必要がある。	2年度	効率化して実施
		3年度	効率化して実施
		4年度	効率化して実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度	元年度
--------	-----

事業コード	35201301	事業名称	古文書解読事業	事業区分	通常事業
担当	教育総務部	文化財課	問い合わせ先	222-2421	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	Ⅲ 産業や歴史を大切にしたい“地域の魅力と誇りを育むまち” - 5 地域資源の活用 - ② 歴史的資源の保護と活用
根拠法令等	川口市文化財保護条例

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	直営	
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)		
	市民、及び本市の歴史に関心をもつ市外在住者	同左		
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)		
	本市に残された古文書を解読し、後世に記録として残すほか、それを活用した事業を実施し、市民及び本市の歴史に関心をもつ人に広く公開するため。	専門家に依頼しての古文書解読・古文書講座の実施・解読した古文書を史料叢書として刊行		
元年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>古文書資料の解読を推進した。</li> <li>古文書講座を開催した。</li> <li>子供向け古文書講座を開催した。</li> <li>川口市史料叢書第2集の編纂を実施した。</li> </ul>	項目	実績	単位
		古文書講座の開催	4	回
事業の成果【定性的評価】	古文書講座参加者に、本市に残された古文書資料の重要性について広く周知することができた。			

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	古文書講座の参加者			指標・目標値の説明(算定式)	開催要項において設定した募集人数
	単位	人	指標の種別	結果		
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	実績値・達成状況	60	60	30		
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)	
	単位		指標の種別			
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	実績値・達成状況					

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	10款	06項	08目	012細目	02細々目	古文書解読事業			
年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度					
予算額(A)	2,742	1,954	2,210	3,074	2,150					
決算額(B)=(C)+(D)	2,742	1,899	2,143							
財源※	特定財源(C)	0	0	0	0					
	一般財源(D)	2,742	1,899	2,143	3,074					
概算人件費(E)	6,530	4,220	4,220	4,220	4,220					
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.60	0.50	0.30	0.50	0.30	0.50	0.30	0.50
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	9,272	6,119	6,363	7,294	6,370					

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	12 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	検討した			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	活用の余地なし			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
53 /60	本事業の必要性、有効性は高い。しかし、世代交代に伴い、古文書資料解読の技能を有する人が減少していることから、今後、古文書を解読できる人材の確保と育成が課題である。更に工夫を重ねて実施していきたい。	2年度 効率化して実施 3年度 効率化して実施 4年度 効率化して実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度	元年度
--------	-----

事業コード	35201502	事業名称	文化的景観推進事業	事業区分	主要な事業 政策宣言39
担当	教育総務部	文化財課	問い合わせ先	222-2421	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成 29 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	Ⅲ 産業や歴史を大切に“地域の魅力と誇りを育むまち” - 5 地域資源の活用 - ② 歴史的資源の保護と活用
根拠法令等	文化財保護法

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	一部委託
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	安行・神根・新郷・戸塚周辺の植木畑等とその所有者	市民等	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)	
	本市の重要な地場産業のひとつである植木産業によって形成された風景を、安行植木業の文化的景観として調査・記録し、その歴史・文化とともに後世に伝えていくために実施するもの。	安行植木の文化的景観について、文化的景観調査、報告書作成、普及啓発事業等を実施するもの。	
元年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績	
	安行植木業の文化的景観について、調査委員会議を実施するとともに、調査報告書の作成に向けて昨年度までの歴史民俗調査、地質・植生等の調査の整理や追加の調査を行った。	項目	実績
		文化的景観調査委員会議	1 回
事業の成果 【定性的評価】	安行植木業の文化的景観の概要、歴史、民俗、地質、植生等の調査の整理や追加の調査を行った。		

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	会議の実施回数			指標・目標値の説明(算定式)	文化的景観調査委員会議の実施回数				
	単位	回	指標の種別	活動						
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度				
	実績値・達成状況	3 達成	3 未達成	1 未達成						
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)					
	単位									
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度				
	実績値・達成状況									

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	10款	06項	08目	009細目	01細々目	文化的景観推進事業				
年度	平成29年度	平成30年度		令和元年度		令和2年度	令和3年度				
予算額(A)	8,137	18,459		429		—	—				
決算額(B)=(C)+(D)	8,122	13,088		69							
財源※	特定財源(C)	4,060	6,543		0		—	—			
	一般財源(D)	4,062	6,545		69		—	—			
概算人件費(E)	7,760	7,850		7,850		—	—				
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.90	0.20	0.90	0.20	—	—	—	—	
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	15,882	20,938		7,919		—	—				

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	どちらともいえない	13 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	13 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	検討した			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
52 /60	安行植木業の文化的景観について、これまでの調査をまとめ、調査報告を持って植木畑所有者に対して安行植木業の文化的景観としての価値について聞き取り調査等続ける必要がある。	2年度	他事業に統合されて実施
		3年度	—
		4年度	—

実施計画事業評価調査

評価対象年度	元年度
--------	-----

事業コード	35201602	事業名称	歴史自然資料館施設運営費	事業区分	主要な事業 政策宣言36
担当	教育総務部	文化財課	問い合わせ先	222-2421	新規・継続
					新規

1 事業期間・根拠等

事業期間	令和 元 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	Ⅲ 産業や歴史を大切に“地域の魅力と誇りを育むまち” - 5 地域資源の活用 - ② 歴史的資源の保護と活用
根拠法令等	川口市立文化財センター設置及び管理条例

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	一部委託	
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)		
	市民等	市民等		
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)		
	歴史自然資料館の運営を通じ、市民に郷土の歴史・文化への理解を深めてもらうとともに、郷土愛の醸成の一助とする。	歴史自然資料館を運営(映像ギャラリー・展示室の一般公開、文化団体への貸し出し)し、企画展やワークショップを開催する。		
元年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>映像ギャラリー及び展示室等における常設展示を公開し、映像ギャラリーの市民文化団体への貸し出しを行った。</li> <li>企画展1回、公演会2回、講座・ワークショップ9回を実施。</li> <li>新たな映像新番組を制作した。</li> <li>伊奈町との文化交流イベントを開催した。</li> </ul>	項目	実績	単位
		イベント参加者数	7,451	人
		来館者数	58,700	人
事業の成果【定性的評価】	市民に郷土の歴史・文化への理解を深めてもらうとともに、郷土愛の醸成に寄与した。			

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	歴史自然資料館の来館者数			指標・目標値の説明(算定式)	歴史自然資料館の来館者数		
	単位	人	指標の種別	結果				
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
	実績値・達成状況			50,000	50,000	50,000		
				58,700	達成			
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)			
	単位		指標の種別					
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
	実績値・達成状況							

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	10款	06項	08目	011細目	01細々目	歴史自然資料館施設運営費			
年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度					
予算額(A)	—	—	25,449	21,627	21,627					
決算額(B)=(C)+(D)	—	—	25,411							
財源※	特定財源(C)	—	—	0	0					
	一般財源(D)	—	—	25,411	21,627					
概算人件費(E)	—	—	3,160	3,160	3,160					
従事職員人数(人)	常勤	再任用	—	—	0.40	0.00	0.40	0.00	0.40	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	—	—	28,571	24,787	24,787					

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	11 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	9 /15
	業務プロセス改善	行わなかった			受益者負担の水準	不明	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
48 /60	今後、常設展示や映像番組の充実を図るとともに、立地を活かした旧跡赤山城跡への現地見学へと誘う魅力ある運営を実施していきたい。	2年度 現状維持で実施 3年度 現状維持で実施 4年度 現状維持で実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度	元年度
--------	-----

事業コード	35300102	事業名称	NHK跡地整備事業			事業区分	主要な事業 政策宣言32
担当	経済部	産業労働政策課	問い合わせ先	258-1619	新規・継続	継続	

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成 11 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	Ⅲ 産業や歴史を大切にしたい“地域の魅力と誇りを育むまち” - 5 地域資源の活用 - ③ SKIPシティを活用した地域の活性化
根拠法令等	さいたま新産業拠点整備計画、さいたま新産業拠点(SKIPシティ)B街区利用計画

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	直営
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの) ・事業者 ・地域住民 ・SKIPシティ来場者	受益者(最終的に受益を受ける人) ・市民	
事業の概要	事業の目的(何のために) ・映像などのコンテンツに関する新しい産業創出や情報発信の拠点とするため。 ・地域住民等の利便性向上のため。	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか) ・映像などのコンテンツに関する新しい産業創出や情報発信の拠点として整備・活用するほか、地域住民等の利便性向上のために整備を図る。 ・SKIPシティ利活用検討協議会の開催	
元年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか) ・SKIPシティの維持管理 ・NHKとの土地交換に向けた、土地の測量や鑑定、折衝を行った	主な実績 項目 実績 単位 B・C街区の除草 2 回 測量および鑑定 1 回	
事業の成果 【定性的評価】	令和2年度以降の土地売買・土地交換に向けて、SKIPシティB街区等の土地測量と鑑定を行うことができた。		

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	SKIPシティ利活用検討協議会の開催回数			指標・目標値の 説明(算定式)	B・C街区の利活用について埼玉県と協議する非公開の協議会の開催日数				
	単位	回	指標の種別	活動						
	目標値	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度
	実績値・達成状況	0 未達成		0 未達成		0 未達成				
指標②	名称				指標・目標値の 説明(算定式)					
	単位									
	目標値	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度
	実績値・達成状況									

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	07款	01項	02目	002細目	03細々目	NHK跡地整備事業				
年度	平成29年度	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度			
予算額(A)	6,393	6,119		32,997		3,838,224		28,980			
決算額(B)=(C)+(D)	5,105	5,158		32,508							
財源※	特定財源(C)	0		0		0					
	一般財源(D)	5,105	5,158		32,508		3,838,224				
概算人件費(E)	4,680	6,004		7,031		7,031		7,031			
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.60	0.00	0.76	0.00	0.89	0.00	0.89	0.00	
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	9,785		11,162		39,539		3,845,255		36,011		

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待以上	15 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	13 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	15 /15
	業務プロセス改善	検討した			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	十分行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
58 /60	令和4年のNHKとの土地交換に向けて、埼玉県所有のB街区等用地を購入する。新たに取得するB街区残地及びNHKとの土地交換により取得する予定のC街区の利活用について、SKIPシティ利活用検討委員会で検討していく。	2年度	拡充して実施
		3年度	縮小して実施
		4年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度	元年度
--------	-----

事業コード	35300204	事業名称	映画祭関連事業	事業区分	主要な事業 政策宣言32・その他
担当	経済部	産業労働政策課	問い合わせ先	258-1619	新規・継続 継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成	15	年度	～	年度
第5次川口市総合計画	Ⅲ 産業や歴史を大切にしたい“地域の魅力と誇りを育むまち” - 5 地域資源の活用 - ③ SKIPシティを活用した地域の活性化				
根拠法令等	SKIPシティ国際映画祭開催基本方針				

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	全部委託
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	・映像クリエイター ・映像関連産業関係者 ・映画祭来場者	同左	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)	
	・「デジタルシネマ」の裾野を広げ、新しいクリエイターを発掘する ・将来本市の産業の核となる映像関連産業の育成に役立てていく	・世界中から募集したデジタルシネマの中から、優秀作品を顕彰する ・オープニング映画製作 ・話題作・最新作の上映や、地域ぐるみで賑わいを創出するためのイベントを開催する	
元年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績	
	・7月13日(土)から21日(日)まで映画祭を開催 ・各種イベントの開催 ・映画祭実行委員会定例会の開催(月1回)	項目	実績
		SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2019の開催	1
事業の成果 【定性的評価】	・映画祭来場者数合計が、目標を上回り、9,024人となった。		

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	SKIPシティ国際Dシネマ映画祭入場者数			指標・目標値の説明(算定式)	前年度の来場者を上回る人数		
	単位	人	指標の種別	結果				
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
	実績値・達成状況	9,050	9,228	9,000				
		9,228	達成	9,740	達成	9,024	達成	
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)			
	単位		指標の種別					
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
	実績値・達成状況							

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	07款	01項	02目	002細目	05細々目	映画祭関連事業	
年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度			
予算額(A)	25,000	60,000	25,000	25,000	25,000			
決算額(B)=(C)+(D)	25,000	60,000	25,000					
財源※	特定財源(C)	0	0	0	0			
	一般財源(D)	25,000	60,000	25,000	25,000			
概算人件費(E)	4,290	5,530	4,582	4,582	4,582			
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.55	0.00	0.70	0.00	0.58	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	29,290	65,530	29,582	29,582	29,582			

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	どちらともいえない	13 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	13 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	15 /15
	業務プロセス改善	検討した			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	十分行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
54 /60	東京オリンピック・パラリンピック開催に伴い、映画祭開催時期が例年と異なること、また、前年度の来場者数を上回るよう、引き続き周知・PR活動を行っていく。	2年度 現状維持で実施 3年度 現状維持で実施 4年度 現状維持で実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度 元年度

事業コード	35300302	事業名称	映像関連普及事業			事業区分	主要な事業 政策宣言32
担当	経済部	産業労働政策課	問い合わせ先	258-1619	新規・継続	継続	

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成 14 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	Ⅲ 産業や歴史を大切にしたい“地域の魅力と誇りを育むまち” - 5 地域資源の活用 - ③ SKIPシティを活用した地域の活性化
根拠法令等	

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	全部委託	
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)		
	・川口市内の小学生(CG制作) ・川口市内小学5・6年生(映画制作)	同左		
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をするのか)		
	・映像産業を核とした次世代産業導入・集積のための人材育成に寄与する ・制作作品を市民に紹介し、映像関連事業の普及・啓発	・小学生がCG制作を体験 ・小学5・6年生による15分程度の短編映画制作 ・映像作品上映会の実施		
元年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をされたのか)	主な実績		
	・市内小学生がCGアニメーションを制作 ・市内小学5・6年生が、演出、主演、撮影、編集等全てを担当し、映画を制作 ・制作映画を発表会、映画祭にて公開	項目	実績	単位
		CG制作体験教室	853	人
事業の成果 【定性的評価】	川口市内の小学生がCG教室や短編映画制作を通して、次世代産業への理解・興味・関心が向上した。			

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	CG教室参加希望者			指標・目標値の説明(算定式)	定員に対して、参加希望者が上回る人数					
	単位	人	指標の種別	結果							
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度					
	実績値・達成状況	679	達成	964	達成	853	達成				
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)						
	単位		指標の種別								
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度					
	実績値・達成状況										

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	07款	01項	02目	002細目	04細々目	映像関連普及事業			
年度	平成29年度	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		
予算額(A)	5,185	4,645		4,731		4,731		4,731		
決算額(B)=(C)+(D)	5,185	4,645		4,731						
財源※	特定財源(C)	0		0		0		0		
	一般財源(D)	5,185	4,645		4,731		4,731			
概算人件費(E)	1,560	1,580		1,817		1,817		1,817		
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.20	0.00	0.20	0.00	0.23	0.00	0.23	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	6,745	6,225		6,548		6,548		6,548		

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	13 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	どちらともいえない			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	15 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	15 /15
	業務プロセス改善	改善の余地なし			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	十分行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
56 /60	制作した映画を上映あるいは公開することで、事業の周知につなげることができるか検討する。	2年度	現状維持で実施
		3年度	現状維持で実施
		4年度	現状維持で実施